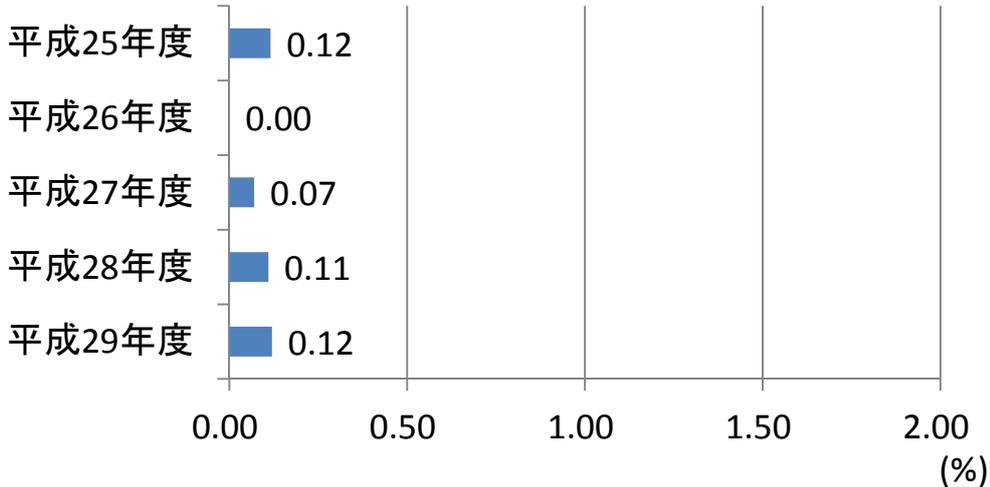




31 手術あり患者の肺塞栓症の発生率

解説	肺塞栓症は血栓(血のかたまり)が肺動脈に詰まり,呼吸困難や胸痛を引き起こす疾患であり,程度によっては死に至る場合もあります。長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多いです。エコミークラス症候群も肺塞栓症の一種ですが,入院中においては適切な診療により,かなりの部分が予防可能です。												
実績	 <table border="1" data-bbox="368 904 1358 1391"><thead><tr><th>年度</th><th>発生率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成25年度</td><td>0.12</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>0.00</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>0.07</td></tr><tr><td>平成28年度</td><td>0.11</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>0.12</td></tr></tbody></table>	年度	発生率 (%)	平成25年度	0.12	平成26年度	0.00	平成27年度	0.07	平成28年度	0.11	平成29年度	0.12
年度	発生率 (%)												
平成25年度	0.12												
平成26年度	0.00												
平成27年度	0.07												
平成28年度	0.11												
平成29年度	0.12												
定義	DPCデータを元に算出した,特定の手術を実施した患者に対する「肺血栓塞栓症」の発生割合を算出するものです。												